

事務事業及び予算の執行実績

(令和7年度分「一部令和6年度分を含む」)

静岡県立浜松聴覚特別支援学校

目 次

□□□□□□	事務事業の概要	1
□□□□□□□□	事務執行の根拠法令調	16
□□□□□□	学校施設の概要	17
□□□□□□	在籍生徒調	19
□□□□□□	入学志願者及び入学者数調	20
□□□□□□□□	卒業生の動向調	21
□□□□□□	生徒の状況	22
□□□□□□□	預金調	24
□□□□□□□	郵券等受払調	25
□□□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	26
□□□□□□□	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	26
□□□□□	委託料に関する調	27
□□□□□	負担金支出調	29
□□□□□	建築工事調	31
□□□□□	公有財産調	33
□□□□□□□	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	35
□□□□□	行政財産貸付・使用許可調	37
□□□□□□□	主要備品調	38

□□□□□□

事務事業の概要

1 概況

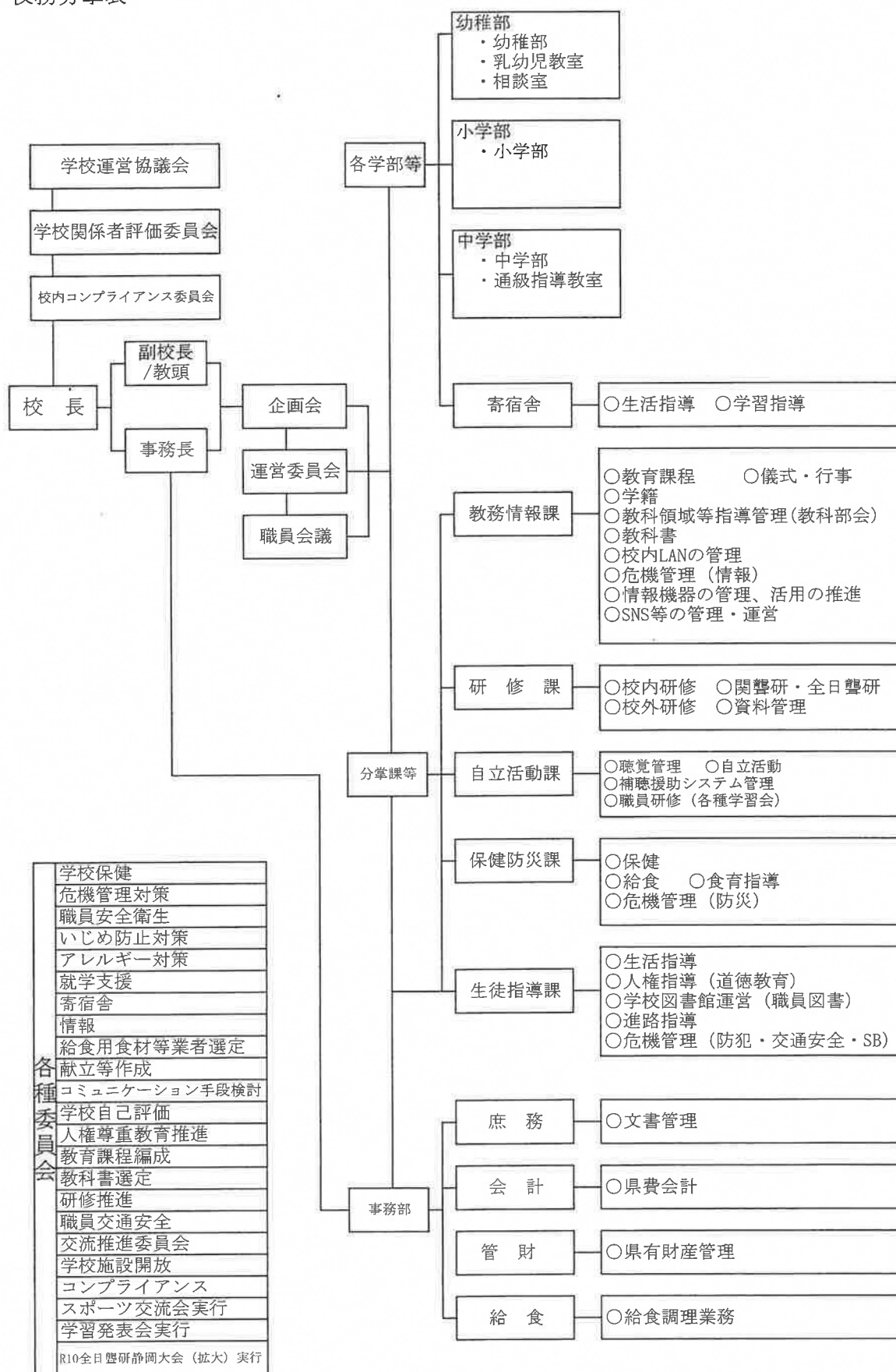
(1) 学校の沿革

大正12年	4月1日	泉亀太郎・湯浅輝夫・浜松市鍼灸組合相謀り設立 浜松市鴨江町の私立浜松盲学校内に浜松聾唖学校を併設
昭和20年	6月18日	戦災により校舎その他一切を焼失
20年	7月5日	財団法人浜松聾唖学校として認可
21年	5月10日	浜松市追分町の国立浜松病院を借用して授業
23年	4月1日	財団法人浜松聾唖学校が静岡県に移管され、静岡県立浜松聾 学校となる。義務教育制実施 児童生徒51人、5学級編制
23年	10月30日	借用校舎並びに用地買収
25年	12月28日	浜松市幸町に校地約 6,000坪を買収
26年	8月30日	校舎並びに寄宿舍工事完了に伴い移転
27年	3月3日	新築落成式
37年	4月1日	幼稚部5歳学級新設
41年	4月1日	幼稚部4歳学級新設
43年	3月11日	体育館工事完了
44年	4月1日	幼稚部3歳学級新設
45年	3月10日	新校舎第一期工事竣工
46年	3月31日	新校舎第二期工事竣工
46年	4月1日	幼稚部2歳学級新設、中学部に重複学級新設 高等部学年進行により沼津聾学校に統合 (高等部1年沼津聾学校に進学)
47年	4月1日	小学部に重複学級新設
48年	3月31日	静岡県立聾学校学則一部改正(高等部沼津聾学校に完全統合) 4月1日施行
58年	3月15日	給食棟竣工(464.05㎡)
59年	5月31日	寄宿舍竣工(408.84㎡)
60年	12月20日	プール新設工事完了
63年	2月21日	校歌制定(40周年記念)
63年	10月24日	心身障害児交流活動地域推進研究指定発表 (昭和62・63年度文部省、県教委指定)
63年	12月5日	公共下水道接続工事完了
平成元年	8月31日	木の教室(視聴覚室・図書室)工事完了
元年	10月24日	寄宿舍スプリンクラー工事完了
2年	5月12日	静岡県中学校体育連盟加盟
2年	8月25日	体育館進入路建設工事完了
4年	2月15日	体育館集団補聴設備設置工事完了

平成 5 年	9 月 30 日	職員室他冷暖房設備設置工事完了
6 年	8 月 17 日	門扉（東門・西門）取替工事完了
7 年	8 月 31 日	防火シャッター他改修工事完了
8 年	3 月 25 日	注意表示灯等設置工事完了
9 年	3 月 25 日	電話交換設備改修工事完了
10 年	3 月 30 日	フィールドアスレチック設置
平成 11 年	1 月 26 日	本館（北校舎）耐震補強・防音工事竣工
11 年	1 月 26 日	防音工事により木の教室（図書室）解体撤去
12 年	1 月 31 日	第二校舎（南校舎）耐震補強・防音工事竣工
12 年	1 月 31 日	防音工事により木の教室（視聴覚室）撤去
12 年	12 月 5 日	北東法面擁壁設置工事完了
16 年	2 月 27 日	体育館改修（天井落下防止）工事完成
17 年	4 月 1 日	通級指導教室開設
18 年	2 月 3 日	体育館耐震補強建築工事完了
20 年	4 月 1 日	校名を静岡県立浜松聴覚特別支援学校と改称
21 年	9 月 24 日	受水槽改修工事竣工
26 年	3 月 31 日	災害用仮設トイレ設置工事竣工
27 年	3 月 31 日	太陽光パネル設置工事竣工
令和 2 年	8 月 28 日	東棟プレイルーム空調設備設置工事完了
3 年	1 月 22 日	本館及び第二校舎防衛施設周辺における防音工事補助事業により空調設備更新工事完了
5 年	11 月 10 日	創立百周年記念式典を挙げる

(2) 組織図

校務分掌表



2 目指す学校像

(1) 【令和6年度】

教育目標 『 たくましく 心豊かに 』

言語力を向上させ、自分のよさや可能性を最大限に伸ばし、「共生・共育」社会を実現する担い手として自ら考え、判断し、実践できる人を育てる。

目指す子ども像

- 自ら人とかかわり、思いやりのある子
- 自ら考え、判断し、表現できる子
- 自ら遊び、自ら学習する子
- 自ら心と体を鍛える子
- 人や状況に、しなやかに対応できる子

(2) 【令和7年度】

教育目標 『 たくましく 心豊かに 』

言語力を向上させ、自分のよさや可能性を最大限に伸ばし、「共生・共育」社会を実現する担い手として自ら考え、判断し、実践できる人を育てる。

目指す子ども像

- 自ら人とかかわり、思いやりのある子
- 自ら考え、判断し、表現できる子
- 自ら遊び、自ら学習する子
- 自ら心と体を鍛える子
- 人や状況に、しなやかに対応できる子

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	成果目標	達成状況		評価	成果と課題
いきいき	互いを認め合う人権感覚を高め、豊かな心を育む指導の充実	幼児児童生徒は、相手の意見を聞けたり自分の意見を言えたりできている。	職員評価 AB 96.4%	保護者評価 84%	A	○繰り返しの遊びの中や対話的な活動などの意図的な活動の場の設定により、自分の思いを伝えたり、友達の意見を聞いて自分の意見を持ったりすることができた。 △学級目標に人権の目標を取り入れ、日常的な取組にしている。
		異なる考えでも受け止め、相手を尊重した言動ができている。	職員評価 AB 85.7%		B	○子どもの様子や授業づくりについて、積極的に情報交換ができ、意見を出し合い、話し合うことができた。
		児童生徒は、自分の健康や命を守る方法を理解し行動できている。	職員評価 AB 100%	保護者	A	○児童生徒が毎月保健目標を立てて実行反省することで、目標を意識する行動が見られた。 △保健目標の評価を見合えるようにし、次の行動につなげる。 ○災害時の行動を自分事として考える意識が根付いてきた。

安全・安心な生活のための環境・体制づくり	緊急時の初動体制を理解し、迷わず対応ができる。	職員評価 AB 96.4%	評価 84%	A	○1学期中に地震・火災・土砂災害の避難訓練を実施したことで避難方法の理解とスムーズな避難につなげることができた。 △臨機応変な対応につなげるため、予告なし訓練を継続する。
	会議資料の事前配布、時間短縮が図られ、時間を有効に使い表明した退勤時刻に退勤できている。	職員評価 AB 85.7%		B	○資料の事前配布で会議時間短縮に努め、議題により紙面開催や中止にすることで事務処理時間を増やすことができた。 △17時退勤日は月末を避ける。
	学校経営予算の計画的な執行により、12月末執行率が80%以上となっている。	職員評価 AB 96.5%		A	○計画的な執行により、12月末執行率が80%以上となった。来年度も適切な会計処理と効率的な予算執行を図る。
わくわく 一人一人の 言語力の獲得と、協働的な学びの授業や生活づくり	聴覚障害教育の専門性が高まり、専門性を発揮して指導ができている。	職員評価 AB 85.8%	保護者評価 90.5%	B	○各種学習会と学部授業づくりを通して、豊かな言葉を身に付けるための専門性の継承、向上ができた。 △授業公開の機会を増やす。
	幼児はICTを活用した保育を通してことばの理解が深まり、笑顔で楽しいやり取りが増えている。児童生徒はICTを活用しながら学びが深まり、基礎学力が定着できている。	職員評価 AB 100%		A	○幼児は主に視覚支援として、児童生徒は書字の代替手段や学びを深めるために、ICTを活用する場面が増え、ねらいを明確にしたICTの活用が進んだ。 △学びを深めるためのICTの効果的な活用についてさらなる研修を進めるとともに、メディアリテラシーも高めていく。
	舎生が、互いの意見を交流させながら行事の話し合いを進めることができている。	職員評価 AB 96.1%	保護者評価 80%	A	○一緒に活動する視覚舎生のことを念頭に置き、行事の内容を考えたり話し合いを進めることができた。来年度も舎生の協働を前提に主体的に行動できるようにしていく。
	図書資料の充実や読書環境の整備を図り、子どもの読書環境づくりを進めることができている。	職員評価 AB 100%		A	○読書月間に図書委員会と連携して様々な企画を行い、図書室の利用促進や異なるジャンルの本の貸出に繋げるなど読書活動を推進することができた。 △読書を習慣化するためイベントの実施回数などを工夫する。
しなやか 共生・共育と地域におけるセンター的役割の充実	生活経験が広がり、幼児児童生徒の成長を感じることができている。	職員評価 AB 100%	保護者評価 100%	A	○幼児は地域での様々な活動で経験を広げ、児童生徒は交流や校外学習で様々な人とのかわりを学び、視野の広がりにつなげることができた。
	在籍園、在籍校や医療機関等との連携を図り、ニーズに応じた支援ができている。訪問支援や研修会等	職員評価 AB 100%		A	○関係機関と連携を取りながら支援することができた。 ○訪問支援や研修会などで難聴児支援に対する啓発が行えた。 △個々の実態とニーズの把握、

		を通して地域への啓発ができています。				関係機関との情報共有を行いたい。また研修会の参加者を増やす工夫をしたい。
社会自立に 向けた関係 機関との連 携強化	個別の教育支援計画や指導計画、面談記録について、教員間で共有し、指導にかすことができています。	職員 評価 AB 100%	保護者 評価 96%	A	○個別の支援計画検討会を各グループで必要に応じて計画的に実施し、子ども達への支援を考えることができた。 △個別面談後に記録を回覧し情報共有を図る習慣作りをする。	
	家庭や関係機関と連携し、自立と社会参加に向けたキャリア教育や必要に応じたケース会議ができています。	職員 評価 AB 96.3%		A	○幼稚部では両親教室で保護者のニーズに応じた内容を行えた。小中学部では外部・内部資源を活用し、問題解決や自己理解につなげることができた。 △不登校児への対応。	
	自分や友達の良いところ得意なところを言え、自分らしさに気付ける指導や支援ができています。	職員 評価 AB 92.5%		A	○友達の良いところや他者の気持ちを考え、自分の心や体と向き合い、振り返ったりすることができた。 △子ども同士のかかわりをさらに増やし、友達の様々な面に触れ、自他の違いや他者理解を深める。	

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	成果目標	達成状況		評価	成果と課題
いきいき	互いを認め合い、自他を大切に育む指導の充実	・幼児児童生徒は、相手の意見を受け止め、自分の考えをもち、伝え合うことができています	職員評価 AB 100%	児童生徒評価 AB 100%	A	○朝の会での話し合いや異学年間での対話的な活動など意図的に活動の場を設定することで、相手の考えを聞いてから自分の考えを伝えることができた。 ○定期的に人権教育を学校全体で行ったことで、自他を大切に育む気持ちが育ちつつある。
		・教職員は、異なる考えも受け止め、互いの意見を交換し、学び合うことができています。	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB 82.3%	A	○日常的に子どものあられや課題を共有し、教員同士で意見を出し合ったり、協力したりしながら指導を進めることができた。 ○互いの意見を尊重しながら自由に意見を交換できる雰囲気ができ、皆で切磋琢磨できた。
	安全・安心な生活を送るための環境、体制づくり	・幼児児童生徒は、自分の命を守る方法が分かり、安全に生活ができています。	職員評価 AB 100%	児童生徒評価 AB 90%	A	○交通安全意識は定着し、交通ルールを守った歩行（登下校や校外学習）ができた。 ○予告なし、管理職が不在等を

		・教職員は、命を守るための方法を理解し、緊急時に備えることができている。	職員 評価 AB 100%	保護者 評価 AB 94.1% 児童生徒 評価 AB 85.7%		想定した訓練を実施することで子どもや教職員が安全な避難方法を考えることができた。 △実効性のある訓練の継続 △危機管理マニュアルの改訂と周知
		・寄宿舎生は、他校の舎生とも意見を交流させながら話し合いを進め、自分の役割を果たすことができている。	職員 評価 AB 100%		A	○行事の企画では、互いに必要な配慮事項等を確認しながら話し合いを進め、当日の運営では自分の役割を果たし、皆が楽しむことのできる行事をつくりあげた。
		・幼児児童生徒は、自分に必要な保健目標が分かり、その達成に向けて生活を送ることができている。	職員 評価 AB 96.5%		B	○保健目標を自分で決めたことで目標を意識した具体的な行動に繋がった。 △姿勢づくりを重点目標にした活動を実施。
		・幼児児童生徒は、静岡県や世界の食文化を知ったり、食事のマナーを身に付ける必要性を理解したりすることができている。	職員 評価 AB 100%		A	○デフリンピック（ブラジルなど）や地域の食材を使った料理の提供や食堂内の掲示の工夫により、県や世界の食材や料理に興味関心を持つことができた。
		・学校経営予算の計画的な執行により、各分掌等への配当予算の執行率が12月末時点で80%以上となっている。	職員 評価 AB100%		A	○計画的な執行により、各分掌等への配当予算の執行率が12月末時点で80%以上となった。 △関係部署と連携し、効率的な予算執行を図る。
わくわく	一人一人の言語力の獲得と、伝え合い、学び合える授業づくり	・教職員は、聴覚障害教育の基礎基本をおさえた支援が行え、全ての幼児児童生徒が「分かる」授業ができている。	職員 評価 AB 92.9%	保護者 評価 AB 83.3% 児童生徒 評価 AB 95%	A	○目的意識をもった授業公開による研修や「傾聴態度」の指導に重点を置いた実践により、「分かる」授業づくりに繋がった。 △聴覚障害教育の基礎基本の継承の継続
		・教職員は、幼児児童生徒が自ら考え、思考を深めるためのICT機器の効果的な活用ができている。	職員 評価 AB 93.1%		B	○各種学習会や校内実践共有により、生成AIなどの新たなICT活用に挑戦する教員が増え、授業づくりに活かすことができた。 △ICTを活用した授業実践を積み重ね、思考を深め有効活用を共有する。

		・教職員は、OJT による研修や授業を見合うことにより、互いに学び合っている。	職員 評価 AB 96.5%		A	○授業公開（動画視聴含む）、グループ協議により、授業展開や発問等の学びや授業改善に繋がった。 ○他園との交流活動を通して、遊びの広がり意識したり、子どもの課題を把握したりすることができた。 △計画的な1人1授業の実践と事後研修の充実。
		・教職員は、学習会をとおして聴覚障害教育を理解し、指導技術を向上することができている。	職員 評価 AB 100%		A	○3 豊研修会や外部講師を招聘した研修を通して、授業づくりや聴覚障害教育についての専門性向上につなげることができた。 △次年度も継続していく。
し な や か	ニーズにこたえるセンター的機能の充実	・関係機関からの情報と実態把握を基に個々のニーズに応じた支援ができている。 ・研修会や訪問支援をとおして聴覚障害についての理解啓発ができている。	職員 評価 AB 100%	在籍校 評価 AB 100%	A	○通級生、乳幼児教室に通う乳幼児の課題を知り、支援を共有することができた。 ○訪問支援を通して、難聴理解が深まることで、在籍校（園）教員の授業や日頃の支援の仕方の変容に繋がった。 △ICT を活用した在籍校教員との共有を始め、在籍校教員が児童生徒支援により役立てるような理解啓発を図る。
	自分らしく生きるための関係機関との連携強化	・デジタルプラットフォームの運用開始が、計画どおりにできている。 ・個別の教育支援計画や指導計画を活用した面談の実施と、共有すべき支援について確認し合い指導にいかすことができている。 ・系統性のあるキャリア教育プログラムの作成ができている。	職員 評価 AB 92.9%		A	○3 学期には、保護者が閲覧をすることができた。 △本格的なデジタルプラットフォーム運用。
			職員 評価 AB 100%	保護者 評価 AB 100%		○個別面談後の共有すべき支援について学部教員間で共有し、共通理解の上で指導に生かすことができた。 △生成A I を活用した個別の指導計画作成に着手する。
			職員 評価 AB 100%		A	○キャリア教育プログラムを作成し学校全体で共有・検討が進んだ。 △プログラムに沿った取組推進とキャリアパスポートの見直しを図る。

	・幼児児童生徒の生活経験が広がり、自分らしく生活を送ることができている。	職員 評価 AB 96.5%	保護者 評価 AB 94.1	A	○学校間交流、交流籍交流、校外学習等での経験により、学習や自己理解が深まり、幼児児童生徒の興味関心の広がりや生活の充実に繋がった。 △学習目的にせまる、地域資源を活用した学習をさらに実践する。
	・家庭や関係機関と連携し、自立や社会参加に向けた話し合いができている。	職員 評価 AB 96.5%		A	○子どもの課題や保護者の悩みについて、両親教室や保護者面談等を活用して保護者が関わり方を学んだり、解決策を話し合ったりしながら、課題解決に向かうことができた。また、新たに医療機関や支援機関と繋がったケースもあった。
	・幼児児童生徒は、デフリンピックに向けた活動に主体的に活動することができている。	職員 評価 AB 100%		A	○学習や交流を通して、自分自身の夢や身近な目標をもち生活をする児童生徒もいた。 ○通級生や乳幼児教室の親子がデフリンピックについて興味をもち、デフリンピック会場やイベントに出向いて、応援する生徒がいた。

4 監査対象期間における特色ある取組

年 度	取 組 概 要	成果及び課題
令和 6 年度	・タイムマネジメントできる教員集団づくり	・会議資料の事前配布を行い、会議時間の短縮に努めることができた。また、議題によって紙面開催にしたり、中止にしたりすることで事務処理時間を増やすことができた。 ・決められた退勤時刻をおおむね守ることができたが、月末の17時退勤は厳しいため、月末以外で実施していきたい。
令和 7 年度	・デフリンピックに関連した教育活動の充実	・デフリンピックについて調べる学習やデフリンピック選手等との交流を通して、国際手話の学習や目標に向かって努力する大切さ等の気づきを得る機会となった。様々な分野で活躍している先輩聴覚障害者との交流は継続していきたい。

5 教職員について

(1) 異動状況

区分	本務職員												合計
	校長	副校長	教頭	事務長	教諭	寄宿舎指導員	主査	主事	小計	教諭	乳幼時発達支援相談員	小計	
転出者	1	1		1	5	1		1	10	1		1	12
退職者											2	2	2
転入者					3		1		4			1	5
新任者	1		1	1					3	2		2	5
差引増減	0	△1	1	0	△2	△1	1	△1	△3	1	△2	△1	△4

(2) 現員数

ア 職員の配置状況

(令和8年4月1日現在)

区分	本務職員										任期付・臨時・会計年度任用職員						合計
	校長	教頭	事務長	教諭	養護教諭	栄養教諭	主任寄宿舎指導員	主査	主任	小計	教諭	養護教諭	非常勤労務職員	スクールカウンセラー	校医等	小計	
男				8		1	1			10			2		4	6	16
女	1	1	1	17	1		1	1	1	24	5	1		1	1	8	32
計	1	1	1	25	1	1	2	1	1	34	5	1	2	1	5	14	48

イ 職員の年齢

(令和8年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	4	
30歳以上40歳未満	11	
40歳以上50歳未満	7	
50歳以上55歳未満	6	
55歳以上61歳未満	5	
61歳以上	1	
計	34	平均年齢43.2歳

(3) 健康管理について

ア 取組の状況

- ・健康診断（結核健診、生活習慣病健診等）の完全実施を図り、要再検査者の受診を徹底させるとともに、早期発見・早期治療に努めた。
- ・要治療者については、必要に応じて健康管理医や衛生管理者が個別面談を行い、治療状況を把握し、健康管理に留意するよう助言した。
- ・職員安全衛生委員会を定期的に設け、心身の健康問題の検討やその改善に努めた。

イ 健康管理状況

(7) 令和7年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 36 人 職 員 数 37
受 診 率	100.0 %
県平均受診率	100.0 %

a 未受診の理由
育休 1 人

(イ) 令和8年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	1 (1) 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	13(13) 人
D 2		要経過観察	4 (4) 人
D 3		医 療 不 要	15(15) 人
区 分 者 計			33(33) 人
未 区 分 者 数			1 (1) 人
合 計			34(34) 人

a 管理区分A～C2該当者
に対する措置状況

必要に応じて時間外
勤務を制限。

b 未区分の理由

(a) 産休・育休 1人
(b) 新規採用 人
(c) 自己都合による未受診 人
(d) その他 () 人

(4) 教職員の研修について

ア 研修課主催研修

令和6年度			令和7年度		
達成目標	評価	実績(成果)課題	達成目標	評価	実績(成果)課題
・幼児は ICT を活用した保育を通してことばの理解が深まり、笑顔で楽しいやり取りが増え ・児童生徒は ICT を活用しながら、学びが深まり、基礎学力が定着できる。	A	・幼児は主に視覚的支援としてことばの獲得や豊かなやり取りにつなげることができた。 ・児童生徒は視覚的支援や書字の代替手段として、学習効果を高めることができた。 ・効果的な活用に向けた指導と併せて、メディアリテラシーを高めていきたい。	・教職員は、聴覚障害教育の基礎基本をおさえたい支援が行え、全ての幼児児童生徒が「分かる」授業ができている。 ・教職員は、OJTによる研修や授業を見合うことにより、互いに学び合っている。	A	・授業公開（動画視聴含む）、グループ協議により、授業展開や発問等の学びや授業改善に繋がった。 ・他園との交流活動を通して、遊びの広がり意識したり、子どもの課題を把握したりすることができた。 ・計画的な1人1授業の実践と事後研修の充実。

イ 自立活動課主催研修

令和6年度			令和7年度		
達成目標	評価	実績(成果)課題	達成目標	評価	実績(成果)課題
・聴覚障害教育の専門性が高まり、専門性を発揮して指導ができる。	B	- 各学習会を計画通りに実施し、課員全員でチェックリストの項目について伝達を行った。 - 授業では、対話的活動を意図的に設定することや日常生活の中で豊かなことばを身につけるための指導の意識を高めることができた。 - 授業公開の機会を増やしていきたい。	- 教職員は、聴覚障害教育の基礎基本をおさえた支援が行え、全ての幼児児童生徒が「分かる」授業ができている。 - 教職員は、学習会をとおして聴覚障害教育を理解し、指導技術を向上することができている。	A	- 目的意識をもった授業公開による研修や「傾聴態度」の指導に重点を置いた実践により、「分かる」授業づくりに繋がった。 - 聴覚障害教育の基礎基本の継承の継続・3 豊研修会や外部講師を招聘した研修を通して、授業づくりや聴覚障害教育についての専門性向上につなげることができた。

6 防災対策について

年度	区分	月	訓練事項	実施内容
令和6年度	学校	4	緊急搜索訓練 (職員のみ)	- 緊急搜索体制の搜索手順の確認 - 学校周辺の安全確認
		4	地震避難訓練	- 避難経路の確認、消火器の位置確認 - 災害告知カードや誘導灯の意味の確認
		5	土砂災害避難訓練	- 学校立地環境の特徴 - 大雨等土砂災害を想定した避難の方法
		7	火災避難訓練	火災時の避難経路、避難の仕方の確認
		9	地震から火災の避難訓練	- 予告なしの避難訓練 - 災害が重複した時の避難行動の確認
		10	防災訓練	- 南海トラフ地震臨時情報（調査中）が発表されたときの避難行動の確認 - 避難所生活、非常食体験
	寄宿舎	12	地震から土砂災害の避難訓練	二次避難の仕方、経路の確認
		4	オリエンテーション	- 被災時の避難や誘導方法の確認 - 災害時・防犯の対処方法を確認 - 避難場所、避難経路の確認
		4	第1回避難訓練（火災）	- 火災時の避難行動 - 集合場所や注意事項の確認
		5	第2回避難訓練（土砂災害・大雨）	大雨による土砂災害警戒情報発令時の避難方法の確認
		5	防犯訓練	不審者侵入時の避難方法

令和7年度		6	第3回避難訓練(地震)	・地震発生時の避難行動 ・集合場所や注意事項の確認
		10	第6回避難訓練(地震)	・地震の避難態度の確認 ・集合場所や注意事項の確認
		1	第7回避難訓練(地震火災)	・地震に伴う火災が発生した場合の避難行動の確認 ・集合場所や注意事項の確認
	学校	4	防災設置説明会 (新任職員対象)	・消火器の位置確認 ・防火扉、防火シャッターの説明
		4	緊急捜索訓練 (職員のみ)	・緊急捜索体制の捜索手順の確認 ・学校周辺の安全確認
		4	地震避難訓練	・避難経路の確認、消火器の位置確認 ・災害告知カードや誘導灯の意味の確認
		6	土砂災害避難学習	・学校立地環境の特徴 ・大雨等土砂災害を想定した避難の方法
		7	火災避難訓練	・火災時の避難経路、避難の仕方の確認
		7	防災研修(職員)	・IDEA研修 ・防災トイレの設置訓練・防災備品点検
		10	地震から火災の避難訓練	・予告なしの避難訓練 ・災害が重複した時の避難行動の確認
		12	地震から土砂災害の避難訓練	・管理職不在時の避難訓練 ・二次避難の仕方、経路の確認
		12	引き渡し訓練	・引き渡しの流れの確認(9月の予定が中止)
		1	Web171体験(保護者)	・非常時の連絡手段の体験
	寄宿舎	4	防災研修(職員)	・災害時の避難や誘導方法の確認
		4	オリエンテーション	・被災時の避難や誘導方法の確認 ・災害時・防犯の対処方法を確認 ・避難場所、避難経路の確認
		4	第1回避難訓練(地震)	・地震時の避難行動 ・集合場所や注意事項の確認
		5	第2回避難訓練(火災)	・火災時の避難行動の確認
		6	防犯訓練事前学習	・不審者侵入時の避難行動の確認 ・部屋の鍵の閉め方等の確認
		7	防犯訓練	・不審者侵入時の避難方法の確認
		7	職員防災研修	・避難方法 ・火災の危険個所と予防、消火訓練
		10	避難訓練事前学習	・避難場所、避難経路の確認 ・災害に則した避難方法の確認
		10	避難訓練 (地震からの火災)	・地震発生時の避難行動の確認 ・火災時の避難行動の確認 ・集合場所や注意事項の確認

7 学校開放について

「静岡県立浜松聴覚特別支援学校の施設等の開放に関する細則」により、体育館、運動場を開放した。

施設名	利用種目	令和6年度		令和7年度		備考 電気料
		利用日数	利用者数	利用日数	利用者数	
体育館	卓球	1	20	0	0	令和6年度 5,317円
	バレーボール	27	164	47	384	
	エイサー	3	112	15	439	
	サッカー	0	0	2	35	
	和太鼓	0	0	3	40	令和7年度 4,312円
	運動レクリエーション	0	0	1	18	
運動場	グラウンドゴルフ	0	0	1	26	
	サッカー	0	0	1	20	

体育館利用にかかる経費として、電気代の実費を徴収

事務執行の根拠法令調

項 目	根拠法令
学校教育に関すること	教育基本法（第 1 条、第 2 条） 学校教育法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 72 条、第 73 条、第 74 条、第 76 条、第 77 条、第 78 条、第 79 条、第 82 条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第 5 条） 学校給食法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 4 条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第 1 条、第 2 条、第 3 条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校幼稚部教育要領 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領
学校の管理・運営に関する こと	学校教育法（第 137 条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第 33 条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第 21 条、第 22 条） 学校保健安全法（第 15 条、第 27 条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第 3 条、第 4 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律 （第 1 条、第 2 条、第 3 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒 援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨 励費補助金交付要綱 いじめ防止対策推進法

□□□□□□

学校施設の概要

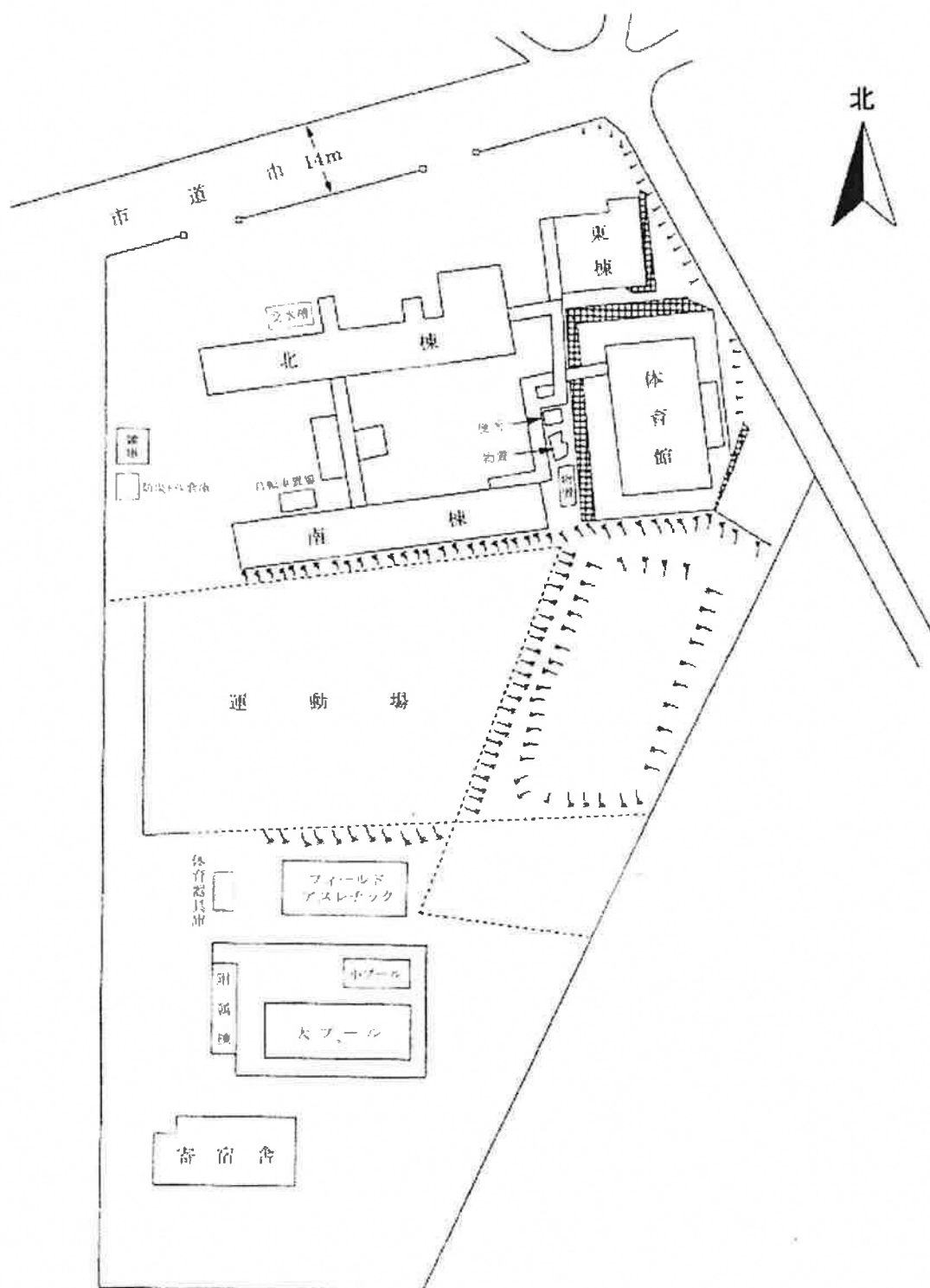
1 面積及び所有区分

(令和8年2月28日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	20,491.77	20,491.77					
内 訳	校 舎 敷 地	7,182.00	7,182.00				
	運動場敷地	3,725.00	3,725.00				
	そ の 他 敷 地	9,584.77	9,584.77				
校 舎	建 1,444.64 延 3,683.80	建 1,444.64 延 3,683.80					
体 育 館	建 617.10 延 617.10	建 617.10 延 617.10					
その他の建物	建 313.31 延 313.31	建 313.31 延 313.31					
寄 宿 舎	建 220.33 延 424.75	建 220.33 延 424.75					
プ ー ル	1箇所	1箇所					20m×8m 8m×4m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	20,491.77㎡	3,683.80㎡	3,725.00㎡
県平均	19,266.88㎡	6,361.36㎡	5,302.07㎡

在 籍 生 徒 調

(令和8年2月28日現在)

学年	学部別 区分		幼稚園部			小学部			中学部			合計		
			男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	合計
1年 (3歳)	入 学 者		0	1	1	1	1	2	3	1	4	4	3	7
		増 加 減 少												
	現 在		0	1	1	1	1	2	3	1	4	4	3	7
2年 (4歳)	入 学 者		1	0	1	4	0	4	0	1	1	5	1	6
		増 加 減 少								1			1	1
	2年(4歳)時当初		1	0	1	4	0	4	0	0	0	5	0	5
		増 加 減 少												
	現 在		1	0	1	4	0	4	0	0	0	5	0	5
3年 (5歳)	入 学 者		2	2	4	1	0	1	4	1	5	7	3	10
		増 加 減 少												
	2年(4歳)時当初		2	2	4	1	0	1	4	1	5	7	3	10
		増 加 減 少												
	3年(5歳)時当初		2	2	4	1	0	1	4	1	5	7	3	10
		増 加 減 少												
	現 在		2	2	4	1	0	1	4	1	5	7	3	10
4年	入 学 者					2	0	2				2	0	2
		増 加 減 少												
	2年時当初					2	0	2				2	0	2
		増 加 減 少					1					1	1	
	3年時当初					2	1	3				2	1	3
		増 加 減 少												
	4年時当初					2	1	3				2	1	3
		増 加 減 少												
	現 在					2	1	3				2	1	3
5年	入 学 者					1	1	2				1	1	2
		増 加 減 少												
	2年時当初					1	1	2				1	1	2
		増 加 減 少												
	3年時当初					1	1	2				1	1	2
		増 加 減 少												
	4年時当初					1	1	2				1	1	2
		増 加 減 少												
	5年時当初					1	1	2				1	1	2
		増 加 減 少												
	現 在					1	1	2				1	1	2
6年	入 学 者					0	2	2				0	2	2
		増 加 減 少												
	2年時当初					0	2	2				0	2	2
		増 加 減 少												
	3年時当初					0	2	2				0	2	2
		増 加 減 少												
	4年時当初					0	2	2				0	2	2
		増 加 減 少												
	5年時当初					0	2	2				0	2	2
		増 加 減 少					1						1	1
	6年時当初					0	1	1				0	1	1
		増 加 減 少												
	現 在					0	1	1				0	1	1
合 計			3	3	6	9	4	13	7	2	9	19	9	28

□□□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		4 年度			5 年度			6 年度			7 年度			8 年度		
学 部 別		幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部	幼 稚 部	小 学 部	中 学 部
生 徒 定 員 (A)																
募集者数 (B)																
志願者数	男															
	女															
	計 (C)															
受検者数	男															
	女															
	計 (D)															
合格者数	男															
	女															
	計 (E)															
志願倍率 (C) / (B)																
受検倍率 (D) / (B)																
入学者数	男	2	2	3	2	1	4	1	4	0	0	1	3	1	1	0
	女	0	0	3	2	0	1	0	0	1	1	1	1	0	1	0
	計 (F)	2	2	6	4	1	5	1	4	1	1	2	4	1	2	0
充 足 率 (F) / (A)																

□□□□□□□□

卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制	1			1
特別支援学校高等部		4			4
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職					
上 記 以 外 ※					
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)		5	—	—	5

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設					
(うち就労系支援事業利用者)					
医療機関					
計		0	—	—	0

□□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和8年2月28日現在) (単位:人)

市町名	浜松市	磐田市	掛川市	袋井市	菊川市	湖西市	森町	合 計
生徒数	16	5	2	1	1	2	1	28
構成比%	57.1%	17.9%	7.1%	3.6%	3.6%	7.1%	3.6%	100%

(2) 通学方法 (令和8年2月28日現在) (単位:人)

区 分	自家 用車	寄 宿 舎	徒 歩	バ ス	電車・ バ ス	車・バ ス ・電車	車・ バ ス	車・ 電車	合 計
生徒数	15	2	1	1	4	3	1	1	28
構成比%	53.5%	7.1%	3.6%	3.6%	14.3%	10.7%	3.6%	3.6%	100%

2 部(クラブ)の加入状況 (令和8年2月28日現在) (単位:人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	1		2
男子	1 年	3	0	0	3
	2 年	0	0	0	0
	3 年	4	0	0	4
	計 (A)	7	0	0	7
	構成比	100%	0%	0%	100%
女子	1 年	1	0	0	1
	2 年	0	0	0	0
	3 年	0	0	1	1
	計 (B)	1	0	1	2
	構成比	50%	0%	50%	100%
合計	(A+B)	8	0	1	9
	構成比	88.9%	0%	11.1%	100%

3 障害別児童生徒数 (令和8年2月28日現在) (単位:人)

区 分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合 計	学級数
幼稚園部	単一障害		1	1	4			6	2
	—								
	—								
	合計		1	1	4			6	2
小学部	単一障害	1	2	0	3	1	1	8	5
	重複障害	1	2	1	0	1	0	5	2
	肢体重複								
	合計	2	4	1	3	2	1	13	7
中学部	単一障害	3	0	3				6	2
	重複障害	1	0	2				3	1
	肢体重複								
	合計	4	0	5				9	3

4 起因疾患別児童生徒数

(令和8年2月28日現在) (単位:人)

区 分	不明	サイトメガロ ウイルス	その他	計
幼稚園部	5	1		6
小学部	13			13
中学部	9			9
計	27	1		28

□□□□□□□□

預 金 調

(令和8年2月28日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘 要
静岡銀行 住吉支店	無利息型 普通預金	0021790	浜松聴覚特別支援学校 資金前渡者 藤田延江	0 円	給与・賞与・ 負担金
静岡銀行 住吉支店	無利息型 普通預金	0530856	(自振口) 浜松聴覚特別支援学校 資金前渡者 藤田延江	0 円	電気料・水道 代・電話料・ 社会保険料等
静岡銀行 住吉支店	無利息型 普通預金	0126423	浜松聴覚特別支援学校 奨励費 代理受領者 藤田延江	0 円	就学奨励費
残 高 合 計				0 円	

□□□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和8年2月28日現在)

(単位：枚、円)

区分	種 類	6年度						7年度								差引現在高	摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出					
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		
郵券	1円券	2	2	30	30	12	12	20	20	0	0	20	20	0	0	通信用	
	2円券	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	0	0	通信用	
	10円券	16	160	30	300	23	230	23	230	10	100	15	150	18	180	通信用	
	20円券	0	0	0	0	0	0	0	0	20	400	3	60	17	340	通信用	
	22円券	0	0	0	0	0	0	0	0	1	22	1	22	0	0	通信用	
	84円券	31	2,604	0	0	27	2,268	4	336	0	0	4	336	0	0	通信用	
	110円券	0	0	0	0	0	0	0	0	30	3,300	8	880	22	2,420	通信用	
	120円券	15	1,800	10	1,200	8	960	17	2,040	0	0	17	2,040	0	0	通信用	
	140円券	0	0	0	0	0	0	0	0	20	2,800	10	1,400	10	1,400	通信用	
	210円券	1	210	20	4,200	12	2,520	9	1,890	0	0	9	1,890	0	0	通信用	
	往復葉書 (100円)	1	100	0	0	0	0	1	100	0	0	0	0	1	100	通信用	
	往復葉書 (170円)	0	0	2	340	1	170	1	170	0	0	0	0	1	170	通信用	
計		/	4,876	/	6,070	/	6,160	/	4,786	/	6,624	/	6,800	/	4,610		

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					5 年度	6 年度	左のうち5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	191,400	144,100	
	一般会計	教 育 費	学校教育費	健康体育費	15,584,052	15,908,432	
計					15,775,452	16,052,532	0
(14) 工事請負費	一般会計	教 育 費	教育委員会費	教育管理費	4,084,300	0	
計					4,084,300	0	0
(16) 公有財産購入費					0	0	
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	1,496,000	128,700	
計					1,496,000	128,700	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	40,600	49,700	
計					40,600	49,700	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0	
計					0	0	0

□□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和8年2月28日現在)

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教 育 費	学校教育費	健康体育費	12,795,610	0
計					12,795,610	0
(14) 工事請負費	一般会計	教 育 費	教育委員会費	教育管理費	5,392,200	0
計					5,392,200	0
(16) 公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品購入費	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	765,600	0
計					765,600	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	33,500	0
計					33,500	0
(21) 補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

□□□□□

委託料に関する調

(令和6年度)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減 額	計						
1	(事務関係) 給食調理 (配膳) 業務委託	(株) ミカサ	円 51,225,114	円 49,500,000	円 △ 2,317,799	円 47,182,201	一般	自 5.8.1 至 8.7.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 7.2.28 7.3.31 7.4.30 小計	円 (11,000,000) 1,375,000 1,375,000 1,375,000 1,375,000 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 15,794,582	学校給食 及び寄宿舍 給食の調理 配膳業務	一般 R5長期
2	寄宿舍警備 業務委託	セコム (株)	660,000	605,000	0	605,000	随契	自 2.8.1 至 6.9.30	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 小計	(532,400) 12,100 12,100 12,100 12,100 12,100 72,600	寄宿舍の警 備業務	随契1号 (少額) R2長期
3	不燃物収集 運搬処理業 務委託	(株) 三共	39,600	39,600	0	39,600	随契	自 6.4.24 至 7.2.28	6.10.31 7.3.25 小計	17,600 22,000 39,600	学校給食の不 燃物収集運搬 処理	随契1号 (少額)
4	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 委託	東名興産 (株)	74,250	74,250	0	74,250	随契	自 6.8.19 至 7.3.31	6.10.31 7.4.11 小計	38,500 35,750 74,250	給食棟・寄宿 舎のグリスト ラップの清 掃、汚泥の収 集運搬処分	随契1号 (少額)
5	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 委託	サンワ環境 整備 (株)	71,500	71,500	0	71,500	随契	自 7.1.10 至 7.3.28	7.3.19 小計	71,500 71,500	学校で排出さ れる産業廃棄 物の収集運搬 処分	随契1号 (少額)
	事務関係 計	5件								16,052,532		
参考 1	自家用電気 工作物保安 管理業務 委託	遠鉄 アシスト (株)		4,755,960	295,361	5,051,321		自 6.4.1 至 7.3.31			自家用電気 工作物保安 管理	浜松城北 工業高校
2	可燃物収集 運搬処分業 務委託	環境保全 (株)		運搬料 1校1回あたり 715円 処分料 1kgあたり 13.2円	0	運搬料 1校1回あたり 715円 処分料 1kgあたり 13.2円		自 6.4.8 至 7.3.31			一般廃棄物 (可燃物残 菜)の収集 運搬処理 業務	浜松 大平台 高校 単価契約
3	消防用設備 等保守点検 業務委託	静岡県消防 設備保守点 検業協同組 合		12,650,000	△ 60,927	12,589,073		自 6.4.1 至 7.3.31			消防用設備 等保守点検 業務	浜松商業 高校
4	プール浄化 装置保守点 検業務委託	清化工業 (株)		998,800	△ 17,050	981,750		自 6.4.8 至 6.12.27			プール浄化 装置保守点 検業務	浜松東 高校
5	防鼠防虫 業務委託	(株) 帝装化成 浜松営業所		551,100	△ 3,080	548,020		自 6.4.15 至 7.3.31			害虫の発生 状況点検、 調査、防除	浜松特別 支援学校
6	警備業務 委託	セコム (株)		10,164,000	0	10,164,000		自 1.10.1 至 6.9.30			夜間休日機 械警備業務	浜松工業 高校
7	警備業務 委託	セコム (株)		14,256,000	0	14,256,000		自 6.10.1 至 11.9.30			夜間休日機 械警備業務	浜松工業 高校
8	浜松北地区 県立学校定 期点検業務 委託	(有) 山口 一級建築士 事務所		2,200,000	0	2,200,000		自 6.11.22 至 7.3.24			建築基準法第 12条点検業務	浜北西 高校
	計	8件										

□□□□□

委託料に関する調

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	委託 業務名	受託者	当初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務 の内容	摘要
				当初額	変更 増減 額	計						
1	(事務関係) 給食調理 (配膳) 業 務委託	(株) ミカサ	円 51,225,114	円 49,500,000	円 △ 2,317,799	円 47,182,201	一般	自 5.8.1 至 8.7.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.25 8.1.30 8.2.27 小計	円 (26,794,582) 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 1,274,226 小計 12,742,260	学校給食 及び寄宿舎 舎食の調理 配膳業務	一般 R5長期
2	不燃物収集 運搬処理業 務委託	(株) 三共	39,600	39,600	0	39,600	随契	自 7.4.30 至 8.2.28	7.10.28 小計	17,600 17,600	学校給食の不 燃物収集運搬 処理	随契1号 (少額)
3	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 委託	東名興産 (株)	71,500	71,500	0	71,500	随契	自 7.7.14 至 8.3.31	7.9.22 小計	35,750 35,750	給食棟のグ リストラップ の清掃、汚 泥の収集運 搬処分	随契1号 (少額)
4	産業廃棄物 収集運搬及 び処分業務 委託	サンワ環境 整備 (株)	71,500	71,500	0	71,500	随契	自 7.12.24 至 8.3.27	小計	0	学校で排出さ れる産業廃 棄物の収集 運搬処分	随契1号 (少額)
	事務関係 計	4件								12,795,610		
参考 1	自家用電気 工作物保安 管理業務 委託	遠鉄 アシスト (株)		5,212,680	0	5,212,680		自 7.4.1 至 8.3.31			自家用電気 工作物保安 管理	浜松城北 工業高校
2	可燃物収集 運搬処分業 務委託	環境保全 (株)		運搬料 1校1回あたり 770円 処分料 1kgあたり 13.2円	0	運搬料 1校1回あたり 770円 処分料 1kgあたり 13.2円		自 7.4.7 至 8.3.31			一般廃棄物 (可燃物残 棄)の収集 運搬処理 業務	浜松 大平台 高校 単価契約
3	消防用設備 等保守点検 業務委託	静岡県消防 設備保守点 検業協同組 合		12,540,000	112,072	12,652,072		自 7.4.1 至 8.3.31			消防用設備 等保守点検 業務	浜松商業 高校
4	プール浄化 装置保守点 検業務委託	清化工業 (株)		995,500	△ 37,400	958,100		自 7.4.10 至 7.12.26			プール浄化 装置保守点 検業務	浜松東 高校
5	防鼠防虫 業務委託	(株) 帝装化成 浜松営業所		668,800	0	668,800		自 7.4.15 至 8.3.31			害虫の発生 状況点検、 調査、防除	浜松特別 支援学校
6	警備業務 委託	セコム (株)		14,256,000	0	14,256,000		自 6.10.1 至 11.9.30			夜間休日機 械警備業務	浜松工業 高校
7	浜松北地区 県立学校定 期点検業務 委託	N.concept 建築計画 二級建築士 事務所		3,608,000	0	3,608,000		自 7.11.25 至 8.3.24			建築基準法第 12条点検業務	浜北西 高校
	計	7件										

□□□□□

負担金支出調

(令和6年度)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担 根拠	事 業 内 容	負担 金額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物管理 責任者講習会受講料	日本産業廃棄物処理振興 センター	開催 要項	特別管理産業廃棄物管 理責任者講習会受講料	13,200	6.5.21
2	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	会則	全国聾学校教頭会会 費	4,000	6.6.28
3	家庭教育を考える部会 参加費	全国ろう学校PTA連合 会	開催 要項	家庭教育を考える部 会参加費	1,500	6.8.29
4	全国聾学校長会研究協 議会参加費	全国聾学校長会	開催 要項	全国聾学校長会研究 協議会参加費	2,000	6.8.30
5	関東地区聾学校長会 会費	関東地区聾学校長会	規約	関東地区聾学校長会 会費	5,000	6.8.30
6	全日本聾教育研究大会 参加費	全日本聾教育研究大会 実行委員会	開催 要項	全日本聾教育研究大 会参加費	4,000	6.9.20
7	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	規約	全国聾学校長会会費	18,000	6.10.31
8	関東地区聾学校教頭会 会費	関東地区聾学校教頭会	会則	関東地区聾学校教頭 会会費	2,000	6.12.20
計		8 件			49,700	

□□□□□

負担金支出調

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	負 担 金 名	交 付 先	負担 根拠	事 業 内 容	負担 金額	支出年月日
1	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	規約	全国聾学校長会会費	18,000	7.7.11
2	全国聾学校長会研究協議会参加費	全国聾学校長会	開催 要項	全国聾学校長会研究協議会参加費	1,500	7.8.5
3	全日本聾教育研究大会参加費	全日本聾教育研究大会 実行委員会	開催 要項	全日本聾教育研究大会参加費	2,000	7.8.6
4	家庭教育を考える部会参加費	全国ろう学校PTA連合 会	開催 要項	家庭教育を考える部会参加費	2,000	7.8.19
5	関東地区聾学校教頭会会費	関東地区聾学校教頭会	会則	関東地区聾学校教頭会会費	2,000	7.10.29
6	関東地区聾学校長会会費	関東地区聾学校長会	規約	関東地区聾学校長会会費	5,000	7.11.13
7	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	会則	全国聾学校教頭会会費	3,000	8.1.20
計		7 件			33,500	

□□□□□

建 築

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額	
					当初額	変 更 増減額
1	教育管理費	令和6年度[第36-Z0833-01号]浜松特別支援学校他体育館照明設備更新工事	浜松市中央区	22,193,000	22,880,000	-198,000
		〔 内、浜松聴覚分		(6,754,000)	(6,743,000)	(-165,000)
		合計	1件	22,193,000	22,880,000	-198,000

□□□□□

建 築

整理 番号	予算科目	工事名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額	
					当初額	変 更 増減額
1	教育管理費	令和7年度 静岡県立浜松聴覚特別支援学校図書室空調冷媒管更新工事	浜松市中央区	2,849,000	2,741,200	0
2	教育管理費	令和7年度 静岡県立浜松聴覚特別支援学校東棟屋外排水管修繕工事	浜松市中央区	2,695,000	2,651,000	0
3	教育管理費	令和7年度 静岡県立浜松聴覚特別支援学校東棟厨房南側空調機更新工事	浜松市中央区	1,771,000	1,732,500	0
		合計	3件	7,315,000	7,124,700	0

工 事 調

(令和6年度)

	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘 要
計							
22,682,000 (6,578,000) 22,682,000	一般	株式会社 鈴木電工	着手 R6.6.18 完成 R6.10.4	22,682,000 (6,578,000) 22,682,000	体育館照明LED化]	-	浜松土木事務所

工 事 調

(令和7年度)
(令和8年2月28日現在)

	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘 要
計							
2,741,200	随契	フジテック株式会社	着手 R7.7.17 完成 R7.9.12	2,741,200	図書室空調機冷媒管更新	-	随契1号(少額) 令達日 R7.7.2 支払日 R7.10.30
2,651,000	随契	フジテック株式会社	着手 R7.7.23 完成 R7.10.10	2,651,000	東棟屋外排水管・桧修繕、周辺樹木伐根、勾配是正	-	随契1号(少額) 令達日 R7.7.14 支払日 R7.10.30
1,732,500	随契	フジテック株式会社	着手 R8.1.27 完成 -	-	厨房南側空調機更新工事	-	随契1号(少額) 令達日 R8.1.8 支払日 -
7,124,700				5,392,200			

□□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	数量又は面積	台帳 価 格	
行政財産		千円 1,850,855		千円		千円 9,002		千円 1,841,853	
土地	m ² 20,491.77	1,753,510					m ² 20,491.77	1,753,510	
立木竹	本 226	931			2	12	本 224	919	
建物	m ² <u>2,595.38</u> 5,038.96	17,522				2,309	m ² <u>2,595.38</u> 5,038.96	15,213	
工作物	個 130	78,892				6,681	個 130	72,211	
公有財産に 準ずるもの		161						161	
電話加入権	件 5	161					件 5	161	

□□□□□

公 有 財 産 調

(令和7年度)

(令和8年2月28日現在)

区 分	令和7年3月31日現在		増		減		令和8年2月28日現在		摘要
	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,841,853		千円		千円 14		千円 1,841,839	
土地	m ² 20,491.77	1,753,510					m ² 20,491.77	1,753,510	
立木竹	本 224	919			3	14	本 221	905	
建物	m ² <u>2,595.38</u> 5,038.96	15,213					m ² <u>2,595.38</u> 5,038.96	15,213	
工作物	個 130	72,211					個 130	72,211	
公有財産に 準ずるもの		161						161	
電話加入権	件 5	161					件 5	161	

□□□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続

区 分	事業名又は契約名	内 容	契約額		
				3 年度	4 年度
長期継続 契約	給食調理(配膳) 業務委託	給食調理(配膳業務) (当初契約日) 令和5年7月31日 (変更契約日) 令和6年9月13日	47,182,201	円	円
長期継続 契約	モノクロ複合機賃 貸借及び使用契約	モノクロ複合機 賃貸借及び使用 (契約日) 令和3年4月1日	23,546,160	円 4,709,232	円 4,836,953

契約に係る調

(令和 7 年度)
(令和 8 年 2 月 28 日現在)

5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
円	円	円	円
11, 000, 000	15, 794, 582	15, 290, 712	5, 096, 907
円	円	円	円
4, 717, 164	4, 709, 232	4, 573, 579	

□□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和8年2月28日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校 敷地	浜松市 中央区 幸三丁目 25番1号	学 校 敷 地	学 校 敷 地	電柱 10本 支線 9本	円 1,500	円 28,500	自 5.4. 1 至10.3.31	中 部 電 力 パワーグリッド 株 式 会 社 浜 松 支 社 配 電 建 設 グ ル ー プ 長	電力供給のため
2	土地	学校 敷地	浜松市 中央区 幸三丁目 25番1号	学 校 敷 地	道 路 敷	217.30㎡		免除	自 3.4. 1 至 8.3.31	浜松市長	道路敷として 使用のため
合 計								28,500			

□□□□□□

主 要 備 品 調

(令和 8 年 2 月 28 日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利 用 状 況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	10-99	その他の教育用器具	フィールドアスレチック TWP-26 No.6	毎日使用（年間203日） 体育・遊具	H10. 3	円 3,935,400
2	1-13	その他の厨房器具	真空冷却機 CMJ-20QE	給食時（年間193日） 給食用	H26. 2	3,218,250
3	4-2	機能検査機器	補聴器特性測定装置 FONIX7000	常時使用（年間246日） 補聴器性能管理調整	H19. 3	2,822,505
4	4-2	機能検査機器	インピーダンス オーディオメータ 901P	常時使用（年間246日） 中耳伝音機能検査	H11. 4	1,900,000
5	2-1	パーソナルコンピュ ータ（一式）	パソコン教室用パソコン 等MT7900	毎日（年間203日） 情報の授業用	H29. 1	1,836,000
6	1-13	食品食器洗浄機	食器洗浄機 SD-113GSH	給食時（年間193日） 給食用	H19. 3	997,500
7	4-2	機能検査機器	オーディオメータ AA-76型	常時使用（年間246日） 児童・生徒聴力測定	H14. 8	997,500
8	1-13	加熱器具	スチームコンベクション オーブン CM61	給食時（年間193日） 給食用	H25. 3	942,900
9	10-8	その他の芸術用器具	陶芸窯 CEM-13	年間 1 回程度 図工・美術教材用	H7. 3	930,000
10	4-1	耳鼻咽喉科用機器	集団補聴器 リオン GH-05	学期 1 回（年 3 回） 学校行事用	H4. 2	927,000
11	4-2	機能検査機器	補聴器特性測定器 CORTIMA8000	常時使用（年間246日） 補聴器性能管理調整	R7. 9	924,000
12	4-2	機能検査機器	オーディオメータ AA-76	常時使用（年間246日） 幼児聴力測定	H11. 4	895,000
13	1-13	調理器具	ガス回転釜 GHSL-28	給食時（年間193日） 給食用	H25. 8	882,000
14	2-2	送受信機	無線 LAN アンテナ JRC NTG-2	毎日使用（年間246日） 情報の管理・送受信	H25. 3	882,000
15	1-13	食品食器洗浄機	食器消毒保管機 MCSK-15	給食時（年間193日） 給食用	H11. 3	807,000
16	1-13	食品食器洗浄機	食器消毒保管機 MW-30	給食時（年間193日） 給食用	H4. 10	790,000
17	2-2	テレビ	50型テレビシステム EPJ-50	年 1 回程度使用 授業・職員研修用	H11. 2	761,250
18	6-9	木工用機械	鉋盤 GN-40	年 1 回程度使用 技術科教材用	S57. 8	755,000
19	4-1	耳鼻咽喉科用機器	耳鼻咽喉科用機器 集団補聴器 GH-41	学期 1 回（年 3 回） 体育授業・学校行事用	H16. 3	724,500
20	4-1	耳鼻咽喉科用機器	集団補聴器 リオン GH-41D	学期 1 回（年 3 回） 体育授業・学校行事用	H15. 3	724,500